

線形代数 I (2013)

数学での議論の進め方

... 将棋, オセロ などのような ゲーム の 分析 の
進め方 に 対応 している とも 見る こと が でき ます でしょう.

数学

ゲーム

定義

 $\Leftrightarrow$

ゲームのルール

定理

 $\Leftrightarrow$ ある盤面 (が存在
すること)

定理の証明

 $\Leftrightarrow$

(定義や、それを用いて
示される定理を
用いて示す)

ゲームの初期配置からある盤面
に到達できることの証明

(それを用いて到達できる盤面
から、ルールに従った「手」
の組み合わせを用いて示す)

定理を証明すること
によって、対象が
もつ性質

 $\Leftrightarrow$

「手」の組み合わせによって
わかる、ある盤面がもつ
性質

春学期の内容

- 第1章: 数ベクトルと行列 ... これから使う道具の準備
(数ベクトル, 行列)
- 第2章: 連立1次方程式と行列 ... 連立1次方程式を行列を用いて解く (ガウスの消去法)
- 第3章: 行列式
- 第4章: 行列式の発展
- 第5章: 数ベクトル空間と線形写像 ... 数ベクトル空間の性質,
「線形写像」と行列の関係.

第1章：数ベクトルと行列.

本節では一度幾何学的な正観を
忘れて知るとして扱う意識で学ぶ。

§1.1 平面ベクトルのスカラー倍と和

定義 (平面ベクトル)

$\mathbb{R}$: 実数全体の集合.

$x_1, x_2 \in \mathbb{R}$ に対し. $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ を 平面ベクトル という.

x_1, x_2 を x の成分 という.

平面ベクトル全体 $\left\{ \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} \mid x_1, x_2 \in \mathbb{R} \right\}$ を $\mathbb{R}^2$ で表す.

(以後「平面」を略すことがある.)



定義 (ベクトルの相等)

$x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}, y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ に対し.

x と y が等しい $\stackrel{\text{def}}{=} x_1 = y_1$ かつ $x_2 = y_2$.

このとき. $x = y$ で表す.



定義 (ベクトルのスカラー倍)

ベクトル $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ に対し. $c \in \mathbb{R}$ をスカラーと呼ぶ.

(ベクトルの要素となるもの. ここでは実数)

上の

$x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$, c に対し. ベクトル $\begin{pmatrix} cx_1 \\ cx_2 \end{pmatrix}$ を

x の スカラー倍 (c 倍) と呼ぶ. cx で表す.

特に $(-1)x = \begin{pmatrix} -x_1 \\ -x_2 \end{pmatrix}$ を $-x$ で表す.



定義 (ベクトルの和)

$x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$, $y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ に對し, x と y の和

$x + y$ を

$$x + y \stackrel{\text{def}}{=} \begin{pmatrix} x_1 + y_1 \\ x_2 + y_2 \end{pmatrix}$$

で定める. 特に $x + (-y)$ を $x - y$ で表す. $\square$

定義 (ゼロベクトル)

$\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ を ゼロベクトル と呼ぶ. $\mathbf{0}$ で表す. $\square$

命題

すべてのベクトル $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ に對し,

$x - x = \mathbf{0}$ が成り立つ.

(Proof) ベクトルの和の定義より

$$x - x = \begin{pmatrix} x - x \\ x - x \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix} = \mathbf{0}.$$

ここで実数の性質を用いていることに注意!

定義 (基本ベクトル)

$e_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $e_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ を 基本ベクトル といい. $\square$

定義 (線形結合)

$a_1, \dots, a_r \in \mathbb{R}^2$.

$c_1, \dots, c_r \in \mathbb{R}$ のとき, ベクトル

$$c_1 a_1 + \dots + c_r a_r$$

を $a_1, \dots, a_r$ の 線形結合 あるいは 1次結合 といい. $\square$

skip

問題 1.1

$$a_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad a_2 = \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad a_3 = \begin{pmatrix} 3 \\ -4 \end{pmatrix}$$

2の24.

$$\begin{aligned} 2a_1 + 3a_2 + a_3 &= 2 \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix} + 3 \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 3 \\ -4 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 2 \\ 4 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} -6 \\ 3 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 3 \\ -4 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 2-6 \\ 4+3 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 3 \\ -4 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} -4 \\ 7 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 3 \\ -4 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} -1 \\ 3 \end{pmatrix}. \end{aligned}$$

Cont.

命題 任意の平面ベクトル $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ 对.基底ベクトル e_1, e_2 の線形結合で表すことができる.Proofpoint e_1, e_2 の線形結合

$$c_1 e_1 + c_2 e_2 = c_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + c_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$\text{即ち. } \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} = c_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + c_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} \quad \text{とすれば } c_1, c_2 \text{ の}$$

値を求めよ!

$$\begin{aligned} x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} x_1 \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 \\ x_2 \end{pmatrix} = x_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + x_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} \\ &= x_1 e_1 + x_2 e_2 \end{aligned}$$

即ち. x は e_1, e_2 の線形結合で表すことができる.

4/16